

第六十四回帝國議會
衆議院

辯護士法改正法律案外一件委員會會議錄(速記)第三回

付託議案

辯護士法改正法律案(政府提出)
法律事務取扱ノ取締ニ關スル法律案(政府提出)

會議

昭和八年三月十一日(土曜日)午前十一時二十分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 星島 二郎君

理事小野寺 章君 理事山本 芳治君

理事一松 定吉君 理事作田高太郎君

牧野 賤男君 松本 弘君

紅露 昭君 天辰 正守君

小林 鎬君 横山金太郎君

内藤 正剛君

出席國務大臣左ノ如シ

司法大臣 小山 松吉君

出席政府委員左ノ如シ

司法政務次官 八並 武治君

司法參與官 岩本 武助君

司法省民事局長 長島 毅君

司法省刑事局長 木村 尙達君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

辯護士法改正法律案(政府提出)

○星島委員長 ソレデハ是カラ辯護士法改正法律案、法律事務取扱ノ取締ニ關スル法律案ニ付キ、前會ニ引續キ會議ヲ開キマス

——牧野君

○牧野委員 チョット一二點質問致シタイ

ト思フノデアリマスガ、第五條ニアリマス

「左ニ掲グル者ハ辯護士タル資格ヲ有セス」

ト云フノデ、一號トシテ「禁錮以上ノ刑ニ處

セラレタル者」ト云フコトガアリマスガ、

是ハ全國ノ辯護士會ノ殆下一致セル意見ト

シテ、ヤハリ現行法ノ通りニ列舉主義ガ希

望デアアル、又ソレガ適當デアアル、ソレヲ罪

ノ罪質ヲ問ハズ、一概ニ禁錮以上ノ刑ニ處

セラレタル者ト云フ風ニナッテ居リマスコ

トハ、大變不公平ナ結果ヲ見ルコトモアリ

ハセヌカ、若クハ大變氣ノ毒ナ事情ノ者モ

アリハセヌカ、斯ウ云フ心配モ致シテ居ル

ノデアリマスガ、政府ニ於テ禁錮以上ノ刑

ニ處セラレタル者ハ、總テ之ヲ失格セシム

ルト云フ其理由ヲ伺ヒタイ

○小山國務大臣 只今牧野君ヨリ御尋ノ

「禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者」、是ハ各

辯護士會ノ御意見ノアルコトモ承知致シテ

居リマスカラ、政府ト致シマシテハ、第五

條ノ第一號ニ付テハ慎重ニ研究ヲ致シタノ

デアリマス、他ノ辯護士ト幾ラカ近イ關係

ニアリマス公證人法、ソレカラ辨理士法、

計理士法ト云フヤウナモノモ、是ハ調査ヲ

致シマシタ、併シ御承知ノ通り此辯護士法

改正ノ趣意ハ、辯護士ノ品位向上、辯護士

ノ資格ニ對シテノ國民ノ信賴ヲ増進シヨウ

ト云フノガ眼目ニナッテ居ルノデアリマス

カラ、辯護士タルベキ人ハ立派ナ、何等非

難サレルコトノナイ人デナケレバナラナイ

ト云フヤウナ所ニ標準ヲ立デマシテ、第五

條ノ規定ヲ置イタ譯デアリマス、ソレデ「禁

錮以上ノ刑ニ處セラレタル者」ト申シマス

ノハ、今日ノ立法ノ各條規ニ照シマス、

禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ヲ除外スル

規定ガ澤山アルノデアリマス、少シク御參

考ニ申述ベテ見マス、高等試驗令ノ第三

條第一號ニ、禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル

者ハ高等試驗ヲ受クルコトヲ得ズトアリマ

ス、ソレカラ普通試驗令モ同様デアリマス、

外務書記生試驗規則モ同様デアリマス、ソ

レカラ他ノ官吏ノ試驗、又ハ採用ニ關スル

規定ヲ見マストズツト下ノ官吏マデニモ、斯

ウ云フ規定ガアルノデアリマス、例ハ巡

査採用規則、任用規程ナドヲ見マス、矢

張禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ除外シ

テアル、斯ウ云フ法規、是ハ澤山ゴザイマ

スガ、一々申述ベマセヌガ、斯ウ云フ採用

又ハ任用規程ト云フモノ、中ニ、禁錮以上

ノ刑ニ處セラレタル者ハ除外シテアリマス

ノニ、獨リ辯護士ダケハ、禁錮以上ノ刑ニ

處セラレタ者デモ宜イト云フノハ宜シクナ

イ、例ハ東京辯護士會ノ意見ノヤウニ、

一年以上ノ禁錮デナケレバイケナイト云フ

コトニスルノハ、刑餘者モ辯護士ニナリ得

ルト云フヤウナ感覺ヲ國民ニ與ヘ、ソレデ

ハ辯護士法ヲ改正スル趣旨トハ、全ク矛盾

シテ來ルコトニナルノデアリマスカラ、今

日ノ法令ノ規定ノ上カラ申シマス、ドウ

シテモ一年以上ノ禁錮ト云フヤウナ御意見、

ニハ贊成ガ出來ナイノデアリマス、ヤハリ

禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ヲ除外スルコ

トニシナケレバナラナイト云フコトニナッ

タノデアリマス

○牧野委員 大體御趣意ハ拜承致シマシ

タ、併ナガラ此現行法ガ列舉主義ヲ採ツタト

云フノハ、恐ラクハ辯護士ノ社會上ノ地位

ニ鑑ミテ、辯護士ガ多方面ニ活動致ス結果

トシテ、往々ニシテ法律違反ノ行爲ヲ醸スカモ知ラスガ、併ナガラ其罪質ニ於テ辯護士ノ信用ヲ傷ケ、或ハ人格ヲ傷ケルモノデナイ限りニ於テハ、ソレヲ認容スルト云フコトデアルト思フノデアリマス、假ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタ者ト致シマスルト、選舉法違反ノ如キ、或ハ新聞紙法違反ノ如キヲモ含ムノデアリマシテ、是等ハ刑辟ニ觸レタニハ相違ナイケレドモ、或ハ個人トシ、或ハ辯護士其者ノ地位ノ上ニ於テハ恐ラクハ影響ハナカラウト考ヘルノデアリマス、即チ辯護士ノ一般信賴の關係ニ於テハ、影響ハナイト思フノデアリマスルガ、サウ云フ罪質ニ伴ウテ、之ヲ列舉スルト云フヤウナコトハ、絶對的ニ出來ナイト云フ御意見デアリマスルカ、或ハ多少緩和シタ條件ナラバ御認めニナルコトデアリマセウカ、ソレヲ御伺シマス

○小山國務大臣 只今例ニ御引キニナリマシタ選舉法違反デアリマストカ、其他ノ犯罪ニ依ッテ刑ニ處セラレタ者ガ、絶對ニ辯護士ニナレナイカト云フ御話デゴザイマスルガ、是ハ實際ハ選舉法違反ナドノ場合デ、若シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタ者ガアリマシテ、ソレガ復權シタモノナラバ、是ハ辯護士ノ資格ヲ回復スル、サウ云フ實例ハ澤

山ゴザイマスルガ、唯立法ノ建前トシマシテ、御話ノアリマシタヤウニ、列舉主義ヲ採ルト云フコトニナリマスト、今日ハ辯護士法制定ノ明治二十六年頃ト違ヒマシテ、法律ガ非常ニ多イノデアリマス、人ノ資格ニ關スル規定ヲ舉ゲテ行カウトシマスト、是ハ立法技術トシテハ非常ニ煩雜デアリマスカラ、サウ云フ點モ考ヘテ只今申上ゲタヤウニ、他ノ法律トノ權衡モ考ヘ斯ウシタ譯デアリマス、東京辯護士會ノ御意見ノ中ニモ、選舉法ノ如キコトガ舉ゲラレテ居リマスガ、是ハ私共トハ少シ考ガ違ッテ居ルヤウニ思フノデアリマス、今後ノコトハ分リマセヌガ、選舉法違反デ禁錮以上ノ刑ニ處セラレルト云フノハ、御承知ノ「ブローカー」ガ多イノデゴザイマス、普通ノ場合ハ大概罰金デ濟ンデ居ルノデゴザイマス、尤モ今度非常ニ嚴重ニスルト云フコトニシテ、體刑デモ科スルト云フ場合ハ、是ハ別デゴザイマスケレドモ、其他ノ法律ニ觸レタ場合デモ、禁錮以上ノ刑ニ處セラレルト云フノハ、罪質ノ宜シクナイ人ガ處セラレルトデアリマスカラ、マアサウ云フ御心配ハナイト私共考ヘテ居リマス、是ハ意見ノ相違ニナリマスカラ、強テ申シマセヌガ、左様ニ御尋ノ絶對ニ此規定ヲ改ムル考ハナイカト

云フ、絶對トマデ言フノデアリマセヌガ、司法省トシテハ現行ノ他ノ法規トノ均衡上、斯ウ云フ風ニ立法ヲシナケレバナラスノデアルト云フコトヲ申上ゲタ趣意デアリマス、非常ニ良イ案ガアリマシテ、司法省ノ立案シマシタ趣意ト違ハナイヤウナ文句ガ茲ニ掲ゲラレマスルナラバ、ソレハ十分承ッテ御協議致ス積リデアリマス

○牧野委員 此點ニ關シマシテハ、只今ノ大臣ノ御答辯ニ付テモ多少異論ヲ持ッテ居リマス、併シ私ハ今大變時間ヲ急イデ居リマスカラ、此方面ニ關スル質問ヲ他ノ諸君ニ譲リ、又他ノ機會ニ譲リタイト思フノデアリマス、唯御願シタイノハ、先程大臣ノ御示シニナッタ他ノ法律ノ規定ノ材料、試験規則トカ、色々材料ヲ御廻シヲ願ヒタイ、是ダケ御願シテ置キマス、ソレカラ第五條ノ第二號ハ、「免官、免職、除名又ハ業務禁止後三年ヲ經過セザル者」、是ハ文官懲戒令トカ云フヤウナモノニ依レバ、二年トナッテ居ルノデスガ、特ニ辯護士ニ限ッテ三年トシタ理由ヲ伺ヒタイノデアリマス

○小山國務大臣 御尤ノ御質問デアリマスガ、是ハ他ノ辨理士法、ソレカラ計理士法等ノ關係上斯ウ云フ風ニ變ッタノデアリマス、是ハ條文ヲ讀ンデ見マスト、二號ハ斯

ウナッテ居ル、「懲戒ノ處分ニ因リ免官若ハ免職セラレタル者、本法ニ依リ除名セラレタル者又ハ辨理士法若ハ計理士法ニ依リ業務ヲ禁止セラレタル者」ニシテ免官、免職、除名又ハ業務禁止後三年ヲ經過セザル者、「又ハ辨理士法若ハ計理士法」ト云フ所カラ「三年」ト云フ文字ニ連絡シテ來テ居ルノデアリマス、上ノ方モサウデアリマス、辨理士法ニハドウアルカト云フト、斯ウ云フ規定ガアルノデアリマス、辨理士法ノ第五條ノ一號ニ「禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者」、但書ガアリマス、但シ六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者ニシテ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シタルモノハ此ノ限ニ在ラス」、斯ウアル、ソレカラモウ一ツ引用シテアルノハ計理士法デス、計理士法ノ第四條ノ第一號ニ「禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者」但書ガアッテ「但シ二年未滿ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者ニシテ刑ノ執行ヲ終リ若ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シタル者又ハ陸軍刑法若ハ海軍刑法ニ依リ一年未滿ノ禁錮ニ處セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラズ」、斯ウ云フ風ニナッテ居ルノデアリマス、此關係上三年ニシナケレバナラスコトニナルノデ

上三年ニシナケレバナラスコトニナルノデ

アリマス、ソレカラ辨護士法ノ第五條ノ四號ノ、業務禁止ノ處分ヲ受ケタ場合ノ所モ「三年ヲ經過セサル者」トアリマス、ソレカラ計理法ノ第四條ノ五號ノ、業務禁止ノ處分ヲ受ケタ者モ、是ハ又一層嚴重デスガ、計理士法ノ第四條ノ五號ニハ斯ウアル「計理士ノ業務ノ禁止ノ處分ヲ受ケタル者但シ其ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シ主務大臣ニ於テ改悛ノ情顯著ナリト認メタル者ハ此ノ限ニ在ラズ」斯ウ云フ風ナ

規定ガアリマスカラ、辯護士法ノ第五條モ、除名ノ場合、辨護士法若クハ計理士法ニ依ッテ業務ヲ禁止セラレタル者ト云フノハ二年トスル譯ニ行カナイ、此二年ト云フコトハ、辯護士法改正調査委員會大分議論シタノデアリマス、一應確カ調査委員會ノ案デハ二年トナツテ居ッタ思ヒマス、所ガ段々後ニナツテ、他ノ新シイ法律ヲ調べテ見テ、工合ガ惡クナツタモノデスカラ、司法省案ガ三年トナツタヤウニ覺エテ居リマス

○牧野委員 只今ノ御答辯ニハ頗ル異論ガアルノデスガ、是モ時間ノ關係上後廻シニ致シマスカラ、御面倒デスガ、關係ノ材料ヲ御廻シヲ願ヒマス、引續イテ第三章ニ「辯護士ノ權利及義務」ト云フコトガ規定シテアリマスガ、此第三章ノ中ニハ、辯護士ノ權

利ガ一向規定シテナイヤウニ思ヒマスガ、何處カニ權利ノ規定ガアリマスカ

○小山國務大臣 第三章ノ「辯護士ノ權利及義務」ト云フノハ、現行法デモ同ジ事ニナツテ居リマス、實ハハッキリ「義務」ト云フ字ヲ書ク方ガ形ノ上デハ宜シイノデアリマスガ、從來カラ第三章ニ同ジヤウナ文字ガ竝ンデ居リマス、又一面ニ於テ義務トナツテ居ル半面ニ、是レ々々以外ノ事ハ辯護士トシテ自由ニ出來ルト云フヤウニモ見エ

ル、今迄モ其通りニナツテ居リマス、ソコデ第三章ニ單ニ「義務」ト云フノモ形ガオカシイノデ、斯ウ云フ風ニナツテシマッタノデアリマス

○牧野委員 第二十條デスガ「辯護士ハ誠實ニ其ノ職務ヲ行ヒ職務ノ内外ヲ問ハズ其ノ品位ヲ保持スベシ」トアリマスガ、斯ウ云フ規定ハ會則ニ委ネタ方ガ宜クハナイカト思フ、古イ代言時代ナラ卒ザ知ラズ、今日ノ發達シタ辯護士トシテハ、法律ニ依ッテ誠實ヲ強ラレ、品位ヲ保持サレル程幼稚デハアリマセヌカラ、是モ全然削除シタ方ガ宜イト思ヒマスガ、之ニ付テ御意見ヲ伺ヒマス

○小山國務大臣 第二十條モ是ハ中々議論ノアッタ條文デアリマスカラ、サウ云フ御意

見ガアリマスレバ、申上ゲテ御參考ニ供シタイト思ヒマスガ、「辯護士ハ誠實ニ其ノ職務ヲ行ヒ職務ノ内外ヲ問ハズ其ノ品位ヲ保持スベシ」ト云フコトハ、極リ切ッタコトデアアル、現行法ノヤウニ辯護士會則ニ決メタラ宜カラウト云フコトモ一ツノ御意見ダト思フノデアリマス、所ガ此辯護士法ハ只今申上ゲマシタヤウニ、辯護士ノ品位向

上、詰リ失禮デスガ、アナタ方辯護士諸君ニ向ッテ言フ條文デナイ、是カラ若イ人ガ辯護士ニナツテ、試補トシテ入ッテ來ル者ガ、此第二十條ニ依ッテ品位ヲ保持スル、修養ヲ十分ニスルト云フコトヲ希望シタイノガ趣意デアリマス、現在ノ辯護士諸君ニ向ッテ保持スベシト云フコトヲ命令スル積リデハナイ、若シ是ガアリマセヌト、假リニ辯護士ノ品位ヲ汚スベキ行爲ガアリマシテ、懲戒ノ處分ヲスル際ニ、何時モ辯護士法第何條ニ違背ト云フ場合ニ於テ、辯護士法ノ違背デナク、辯護士會ガ決メタ辯護士會ノ會則ノドレニ違反ト云フコトニナルガ、サウ云フモノデナイト思フ、辯護士ガ品位ヲ失墜シタト云フ時分ニハ、ソレハ辯護士法ニ違背シタノデスカラ懲戒スル

「委員長退席小野寺委員長代理著席」辯護士法ニ違背シナイガ、會則ニ違背シ

タト云フノデハ、少シク本末ヲ顛倒シタト云フ議論ノ餘地モ出デ來ルト思フ、サウ云フコトカラ兎ニ角辯護士ノ品位ヲ保持スル、誠實ニ職務ヲ行フモノダト云フコトヲ國民ニ向ッテ表示スルコトニナル規定デ、何カ「保持スベシ」ト云フヤウナ文句ナノデ、辯護士ガ特ニ厭ナ感ジヲ起スヤウナ御考ガアルカモ知レマセヌガ、サウ云フ趣意デハナイノデアリマス

ソレカラモウ一ツ此第二十條ト云フモノハ、辯護士法改正調査委員會ニ現ハレタ經過ヲ申上ゲルト分ルノデアリマス、此委員ノ中デ學者側ノ委員ガ中々ヤカマシイ議論ヲ幾ツモ出シタノデアリマス、其中ニ最モ熱心ニ主張シタノハ、成功謝金ノ問題デアリマス、一體成功謝金ト云フノハ不都合ダ、無罪ニナツタ幾ラ取ル、勝訴ニナツタ幾ラ取ルト云フ契約ヲスベキモノデナイト云フヤウナコトヲヤカマシク言ヒマシタガ、ソレハ遂ニ研究ノ結果少數デ其説ハ破レタ、サウスルト、今度ハ辯護士ト當事者トノ間ニ、報酬ニ付テ契約ヲシタ場合ハ必ず届ケ出口、是モ外國ノ例ヲ取ッテ頻リニヤカマシイコトヲ申シタノデアリマシタ、是モ數回研究モシ、討論モシタ結果、ドウモソレモ穩當デナイデハナイカ、辯護士ガ當事者

ト契約スル度ニ辯護士會ニ届ケルトカ、何處ヘ届ケルト云フコトハ、餘リニ辯護士ノ品位ヲ認メナイコトデアルカラ困ルト云フ話モ出マシテ、其案モ議論ノ末否決サレタノデアリマス、其後ニ出テ來マシタノガ此第二十條デアリマス、ソレデ辯護士ト云フモノハ、誠實ニ職務ヲ執ルモノダト云フコトヲ規定シテ置イタラドウダト云フコトニナリマシテ、サウシテ此第二十條ハ全會一致ダト覺エテ居リマス、實ハ少シ前ニ私ノ持ッテ居リマス委員會ノ速記録ヲ出シテ見マシタガ、前ニサウ云フ問題デ大分議論ガアッタモノデアリマスカラ、異論ナク是ハ通ッた條文デアリマス、サウ云フ譯デアリマシテ、此條文ハ考ニ依ッテハ、寧ロ必要ナ試補ノ修習ヲ認メルト云フ趣旨カラ言ヘバ、矢張斯ウ云フ條文ヲ置イタ方ガ私ハ適當ダト思ッテ居リマス

○牧野委員 是モ隨分議論ガアルヤウデアリマスルガ、後廻シニ致シマス、ソレカラ第二十六條ノ「辯護士ハ報酬アル公務ヲ兼ヌルコトヲ得ズ但シ帝國議會議員ト爲リ又ハ官署若ハ公署ヨリ特ニ命ゼラレ若ハ囑託セラレタル職務ヲ行フハ此ノ限ニ在ラズ」斯ウアリマスガ、是ハ理窟ノ上ニ於テハ宜イヤウニ考ヘラレマスガ、便宜上府縣會、

若クハ町村會ノ議員トナッテ報酬ヲ貰フコトガ出來ルヤウニ規定シタ方ガ宜イト思ヒマス、勿論今ノ現行法ノ規定デハ地方自治團體ノ議員ト云フモノハ實費辨償デ、報酬デハナイト云フコトニナッテ居ル、所ガ往住ニシテ稅務署アタリデハ之ニ課稅ヲシテ來ル、ソレガ訴願トナッテ稅務署ガ負ケテ居ル、現行法ノ解釋デハ地方自治團體ノ議員ト云フモノハ實費辨償ト云フコトニナッテ居リマスガ、併シ其用語ハ實費辨償トハ申シマセヌ、衆議院議員ト同ジヤウニ「歳費」ト云フヤウニナッテ居ルカラ、念ノ爲ニ此處ニ纏メテ規定シタ方ガ宜クハナйкаト考ヘマス、殊ニ辯護士ハ年々ドノ方面ニ向ッテモ、選舉度毎ニ辯護士ノ數ガ殖エテ來ル、殆ド大小ヲ問ハズ議員ト云フモノニ辯護士ガ出テ來ルト云フコトハ、必然ノ趨勢ノヤウニ相成ッテ居リマス、此點ニ關シテ政府ハ如何ナル御考ヲ有ッテ居リマスカ、伺ッテ置キタイト思ヒマス

○小山國務大臣 只今ノ御尋ハ二十六條ノ但書ニ結局ナルノデアリマスネ——是ハ辯護士會ノ御意見ヲ此案ヲ拵ヘタ後ニ承ッテ、研究ヲスル餘地ハアルト考ヘテ居リマス、是ハ第一項ノ但書デアリマス、ソレダケ申上デテ置キマス

○牧野委員 ソレハソレト伺ッテ、又後ヘ行キマセウ、ソレカラ第十五條ノ六號ニ辯護士會ノ解散ト云フコトガアリマス、ソレカラ第四十四條ニモ辯護士會ノ解散ト云フコトガアリマス、四十九條ノ第三號ニモ解散ノ規定ガアリマス、五十條ニモ解散ニ關スル規定ガアリマス、ソコデ第一ニ辯護士會ヲ解散スル必要ガ想像出來ルカドウカト云フコト、第二ニ辯護士會ヲ解散シタナラバ、所屬ノ辯護士ハドウナルノデアルカ、本法ニ於テハドウ扱ッテ居ルノデアルカ、ソレヲ伺ヒタイ

○小山國務大臣 解散ヲ致シマスルト、其辯護士會ガナクナルダケノコトダト思ッテ居リマス、辯護士ノ資格ガドウ斯ウト云フノデハナイ、是ハ解散ヲ認メマシタノハ、辯護士會ハ法人トスト云フコトニナリマシテ、其法人トナリマシタ結果ハ解散ノ規定ハドウシテモナケレバナラス、是ハ御承知ノ公法人ト云フ解釋ニナリマスカラ、ソレデ斯ウ云フ規定ガ法人ノ性質上設ケラレタ譯デアリマス

○牧野委員 公法人ダカラ必ズ解散ガナクデハナラヌト云フコトニ付テハ、一寸私ニハ諒解ガ出來マセヌ、辯護士會ノ制度ガ廢セラレナイ限りハ永久ニ存續スベキモノダト

思ヒマス、何カ公益規定ニ關スル關係上之ヲ解散スルト云フヤウナ場合ナラバ、此法律ハ例ヘバドウ云フ場合ヲ豫想スルノデアルカ、其解散豫想ノ場合ガナケレバナラス、ソレヲ先ヅ伺ヒタイ、ソレカラ解散ヲスレバ會ガナクナルト云フコトデスケレドモ、辯護士ハ辯護士會ニ入會シナケレバ職務ヲ執ルコトガ出來ナイ、ソコデ解散セラレテ見ルト云フト、辯護士會ガナクナルノデスカラ、同時ニ他ノ辯護士會ニ入ルマデハ職務ヲ行フコトガ出來ナイ、辯護士會ノ解散ハ宜イケレドモ、其利那ニ於テ假令一時タリト雖モ、同時ニ辯護士ノ職務ヲ奪ッテシマフト云フ結果ニナル、ソレニ付テ此法案ニ於テハ考ヘラレテ居ナイヤウデアリマスルガ、考ヘラレアルノデアリマスカ、ソレヲ伺ヒタイト思ヒマス

○小山國務大臣 ソレハ細カイ規定ニナリマスカラ書イデアリマセヌガ、丁度辯護士會ガ解散ノ決議ヲシマシテ、司法大臣ノ認可スル規定ガアリマス、サウ云フ場合ニ於テ適當ナ措置ヲ執ル積リデ居ルノデアリマス

○牧野委員 尙ホ質問ハ澤山殘ッテ居リマスガ、私ハ外ニ行カナケレバナラス關係上、私ノ質問ハ是デ一時止メマシテ、留保シテ

置キタイト思ヒマス

○内藤委員 澤山アリマスケレドモ、一言
ダケ伺ッテ置キタイト思ヒマス、第四十五條
ハ辯護士ト委嘱者トノ間ニ紛議ヲ生ジタ場
合ニ於ケル調定ニ關スル規定デアリマス
ガ、別ニ辯護士相互間ニ於ケル規定ハアリ
マセヌ、ソレニ付テハドウ云フ御考デ居リ
マスカ

○小山國務大臣 四十五條ニ調停ト云フ言
葉ガアルモノデスカラ、何カ調停制度ヲ取
入レタヤウニ御考ニナルカモ知レマセヌ
ガ、先刻御説明ヲシマシタヤウニ或ル學校
ノ——大學ナドカラ出タ辯護士法改正調査
委員會ノ委員ガ、成功謝金ノ契約ニ關スル
コトヲ非常ニ研究シテ來テ大分論ジタ、其
結果議論ガ段々細カクナッテ來マシテ、サウ
云フ成功謝金トカ、何トカ云フコトヲ言フ
ノハ面白クナイ、要スルニソレハ辯護士ガ
或ル場合ニ於テ契約ハシテ居ルガ、モウ契
約シテ居ル時ト、判決當時トハ事情ガ變ッテ
來テ、ソシテ金ヲ澤山取ルノハ穩當デハ
ナイト云フヤウナコトカラ、問題ガ起ル
場合モアルカラシテ、委嘱者ト辯護士トノ
間ニ紛議ガ生ジタ場合ニハ、成ベク裁判沙
汰ニセズシテ、辯護士會デ調停スルヤウナ
便法ヲ採ッラドウカ、サウスルト辯護士會

ハ常ニ成功謝金ト云フヤウナコトニモ幾ラ
カ注意ヲシテ居ルト云フヤウナコトニナ
ル、辯護士ト當事者トノ間ノ訴訟ヲ避ケル
ト云フヤウナ趣旨デ此四十五條ガ出來タノ
デアリマス、ソレデアリマスカラ、此以外
ノコトハ此時全ク考ヘテ居ナイノデアリマ
ス、辯護士同志ノ停調ト云フヤウナコトハ、
一體辯護士會ガ調停スルトカ、シナイトカ
云フコトハ全ク話ガ出テ居ナイデス

○松木委員 私ハ第二條ノ第二號ノ實務習
ニ關スル規定ニ付テ伺ッテ見タイト思ヒマ
ス、此規定ハ極メテ適切ナル規定ト考ヘル
ノデアリマス、實務修習ニ關スル考試ニ關
スル事項ハ司法大臣之ヲ定ムトアリマス
ガ、ドウ云フコトヲ制定セラレマスカ分リ
マセヌケレドモ、此規定ニ依リマス、無
論辯護士試補ト云フモノハ辯護士ノ資格ガ
ナイ、隨テ裁判所ヘハ出廷出來ナイト云フ
コトノ規定ノヤウニ解釋セラル、ノデアリ
マス、然ルニ辯護士ノ實務ヲ修習スルト云
フコトガ、單ニ書生ノヤルヤウナコトヲシ
タダケデ、實際ノ法律ノ運用、法廷ニ於ケ
ル訟事件ノ取扱等ニ付テ何等干與シナイ
ト云フコトニナリマスルト、餘リ實務ノ修
習ト云フコトハ意義ガナイヤウニ考ヘラレ
ル、無論試補中ハ一人デハ出廷サセナイデ

アリマセウガ、他ノ辯護士ト共ニスル場合
ニ於テハ、裁判所ヘ出廷シテ辯論ニ立會フ
コトモ出來ル、或ハ刑事辯護ニ於キマシテ
ハ、刑事辯護ヲスルコトガ出來ルト云フ風
ニシマセヌト云フト、此實務修習ト云フコ
トハ、實際ニ於テ餘リ效果ガナイヤウニ考
ヘラレル、此點ニ付テドウ云フ御考デアリ
マスカ、伺ッテ見タイト思ヒマス

○小山國務大臣 御尤デアリマス、是ハ初
メノ案ニハ實務修習ノ爲メ試補ハ裁判所ニ
出廷スルコトヲ得トアリマシタノデアリマ
ス、ツイ近頃マデノ案デアリマスガ、辯護
士ハ命令ノ定ムル所ニ依リ實務修習ノ爲メ
裁判所ヘ出廷スルコトヲ得トアリマシタノ
デアリマス、是ハ實務修習ニ關スコトヲ評
議シタ時ニ、之ヲドウシテモサセルコトガ
宜イト云フノデ、斯ウ云フコトニシタノデ
アリマスガ、最後ノ案ガ出來タ時ニ、是ハ
決リ切ッタコトデアルカラ、條文ヲ置カナ
イデモ宜イト云フコトデ、議會ニ提出スル時
ニ、此條文ハ削除サレタノデアリマス、無
論出來ナイノデハナイ、出來ルコトニナッ
テ居ルノデアリマス、實務修習ノ命令、其
命令ノ定ムル所ニ依ッテ法廷ニ出ルコトガ
出來ルト云フ積リデアリマス

○松木委員 命令ノ定ムル所ニ依リト云フ
コトハ、茲ニ規定シテ居ナイト思ヒマス
ガ

○小山國務大臣 ソレハ第二條ニアルノデ
アリマス、「實務修習及考試ニ關スル事項
ハ司法大臣之ヲ定ム」トアリマス

○松木委員 私ノ伺ッタノハ、實務修習ニ關
スル事項ハ司法大臣之ヲ定ム、之ニ依ッテサ
ウ云フ目的ガ達セラレルモノナラバ、私ハ
別ニ御質問スル必要ハナイガ、サウ云フコ
トガ定メラレルカドウカヲ疑ッタカラ御質
問シタノデアリマス、ソレカラ第十八條ニ
「辯護士ハ如何ナル名義ヲ以テスルモ二個
以上ノ事務所ヲ設クルコトヲ得ズ」トアリ
マスガ、此規定ハ想フニ多クノ事務所ヲ設
クルコトハ、弊害ガアルト云フ方面カラ規
定サレタモノト思フノデアリマス、或ハ左
様ナ事實ハ稀ニナイトモ限ラナイノデアリ
マスケレドモ、利便ノ裏ニハ多少ノ弊害ガ
アルト云フコトハ免レヌ所デアリマスガ、
實際ノ便宜ヲ考ヘマス、區裁判所ニシテ
辯護士ノアラザル所ガ隨分少クナイ、左様
ナ場合ニハ一般ノ依頼者ノ便宜ノ爲ニ出張
所ヲ設クルト云フヤウナコトハ、今日マデ隨
分アルヤウデアリマス、私共カラ申シマス
ト、斯様ナ嚴格ナ規定ハ或ル一面ニ於テ辯
護士ノ信用ヲ保持シ、或ハ其職務ヲ嚴正ニ

シテヤルト云フ方面カラ見マスルト、結構ナ規定ノヤウニモ考ヘマスルケレドモ、併シ一般ノ依頼者ノ便宜ヲ考ヘマス、區裁判所ニシテ辯護士ノアラザル所ニ出張事務ヲ設ケテ、事務ヲ取扱フト云フコトモ必要デアルト云フヤウニモ考ヘラレルノデアリマス、此點ハ飽迄矢張政府ハ支持サレル御意見デアリマスカ

○小山國務大臣 此十八條モ辯護士法改正委員會デ大分研究シタ條文デアリマス、只今ノ御意見ハ御尤ノ所モアリマスルケレドモ、此辯護士法ヲ制定シマス際ニ、常ニ念頭ニ置キマシタノハ、所謂辯護士ニアラズシテ法律事務ヲ取扱フ代書人、其他ノ所謂三百ノ取締ヲシナケレバナラスト云フコトマデ議論ガ段々進ンデ行ッテ、一體事務所ヲ幾ツモ持ツノハイケナイ、アレハ要スルニ三百ヲ培養スルノダ、三百退治ヲ強調スルナラバ、辯護士ガ事務所ヲ幾ツモ持ツノハイカスト云フコトカラ出テ來タノデアリマス、立法ノ趣旨ヲソレダケ申上ゲテ置キマス

○松本委員 只今ノ御答デ能ク分リマシタガ、手續上ノコトヲ一寸伺ヒマス、辯護士ハ司法大臣ノ監督ヲ受ケマスカラ、無論申告ハ司法大臣ニスルノハ、是ハ當然デアリマスルケレドモ、舊法デハ總テ所屬地方裁判

所檢察正ニ出スコトニナッテ居ル、東京ハ無論司法大臣ニ申告スル、殊ニ總會ノ開會ニ關スル申告ノ如キハ、檢察正ニシタ方ガ便宜ノヤウニ考ヘマスガ、監督權ガ司法大臣ニアルノデアリマスカラ、司法大臣ニ申告スル此規定ハ別ニ異議ハアリマセヌガ、地方裁判所檢察正ヲ經由シテ、司法大臣ニ申告スル手續ニシタ方ガ宜イト思フノデアリマス、併シ左様ナ規定ガナクテモ手續デアリマスカラ、檢察正ヲ經由シテ出シアモ宜イト云フ御意見デアリマスカ、其點ヲ伺ッテ見タイト思ヒマス

○小山國務大臣 其點ハ司法行政ノ都合デドチラデモ出來マス、其必要ナ場合ニハ、經由致サセルコトモ出來マスカラ、其點御承知ヲ願ヒマス

○一松委員 議事進行ニ付テ一言——質問ヲスルコトニ對シマシテハ、誰モ相當ノ質問ヲシナケレバナラスト考ヘテ居リマスガ、ソレヲ唯思出シ、思出シヤラレマシテハ、速記録ヲ見タ上ニ於テモ非常ニ不便デアリマスカラ、質問ノ順序ヲ決メテ戴イテ、サウシテ其人ガ有ユル質問ヲシテ、モウ質問ガナクナッタ時ニ、其次ノ委員ガ質問ヲスルト言フコトニシテ、秩序ヲ立テ、質問ヲシタ方ガ宜イト思フノデアリマス、ドウカサ

ウ云フヤウニ委員長ニ於テ御取計ヲ願ヒタイ、今一ツハ質問ヲシテ居ル問題ニ對シテ、ソレニ直接關聯アル事柄ハ、ヤハリソレニ關聯シテ質問セシムルコトガ是迄ノ慣例上カラ言ッテモ、又速記録ヲ見ル上カラ言ッテモ必要ダト思フ、サウ云フコトニ委員長ニ於テ御取計アランコトヲ御願申上ゲマス

○小野寺委員長代理 只今ノ第一ノ御申出ハ諒承致シマシタ、第二ノ點ハ只今一松君カラ關聯シテ質問ヲ求メラレタノデアリマスガ、其前ニ松本君ノ發言ヲ許シタノデアリマス、アナタノ方ノ御申出ガ遅カッタ爲ニ關聯事項ノ質問ヲ許サナカッタノデアリマス、左様ナ次第デアリマスカラ、第二ノ御申出モ、勿論其質問ニ關聯シタル質問ハ、即時許ス方針デアリマス、左様御諒承ヲ願ヒマス——

只今大臣ハ閣議ノ都合ガアッテ、退席ヲセラレルサウデアリマスカラ、大臣ニ對スル御質問ナラバ、此次ニ御願シマス、ソレカラモウ時間モ十二時十分過ぎマシタシ、今日ハ本會議モアリマスカラ、是デ散會ヲ致シマシテ、十三日ノ午前十時カラ開會ヲ致シマス

午後零時十一分散會